13日継続大会を確認

二部政経学部の学生大会

駿台政経学会（二部政治経済学部学生自治会）の本年度「定期学生大会」が六月九日午後七時より五号館地下二階で開催された。

会場には代議員二四名、執行部三名、大会役員一名の計三八名、（定足数三二名）の他、約七〇名のオブザーバーが集まった。開会宣言がなされ、議長に岡部一芳君（四年）、書記に堀江紀行君（三年）を選出した後、実質的な議題に入った。

まず、経過報告がなされ、昨年の四・一二官憲学園乱入事件から大学立法粉砕闘争、明大闘争―十一月闘争を経て、現在までの過程が報告された。

情勢分析としては、「世界情勢について、帝国主義が独自の利害追求を行いつつ、NATO・安保などの反革命軍事同盟を結んでいる一方、ソ連、中国においては一国社会主義建設の破産がみられる。そのなかにあって、ベトナムを中心とする後進国民族解放闘争帝国主義諸国内の労働者・学生の闘いが、反戦闘争から帝国主義打倒へと進んでいるとみる。日本の情勢については、日本帝国主義がアジアに向けて独自利害追求を行いつつ、現在の分裂した国民意識を国益国民イデオロギー、民族排外イデオロギーに集約しようとし、合理化・農業の切り捨てなど社会再編を進行させている。教育においても、大学の再編化が大学立法・ロックアウト体制に集約されるように、闘う部分への暴力的圧殺などを行なってきている」としている。

次に、総括に入り「昨年のバリスト闘争については大学立法粉砕・安保粉砕に向けての全国ゼネストの一環として政治的な意義があり、個別明治における六項目要求貫徹の戦術としてあったと位置づける。また、ポツダム自治会の形骸化を、大衆運動の中で目的意識的に解体＝止揚しなければならないことを確認した。

任務方針としては、①大学当局の露骨な弾圧であるロックアウト体制粉砕②来年度予想される二部授業料値上げ阻止③企業における合理化の学園版とも言える二部改編阻止④サークル運動の場、自治運動の場、憩の場としての学生会館の再開⑤クラス末端からのクラス闘争委員会の構築と、七〇年代闘争を主体的に担う、政治意識化された二政闘を再度構築してゆくこと――を採択した。

続いて討論に入り、三年七組代議員からストの動議が出されたが制限時間の関係で翌日、継続審議を行なうことになった。

財政報告、人事については、執行部原案通り可決された。

大会は十時すぎ散会となった。

なお、新人事は次の通りである

委員長　堀江紀行（三年）
副委員長　久保田信行（二年）
事務長　飯田高興（一年）
副事務長　津田泰作（二年）
財政部長　小島陽子（二年）
同　副　吉田千津子（四年）
事業部長　松村　修（一年）
同　副　北沢園子（二年）
厚生部長　中野　朗（一年）
同　副　岡部一芳（四年）
情宣部長　清藤政男（一年）
同　副　森川幸久（四年）

継続審議は十日午後七時より、七四一番教室で約七〇名の参加者を集めて開かれた。

代議員の多くから、ストライキが呼びかけられたが、執行部の提案は十五～二十三日までのストライキとして、戦術として授業放棄討論会を行なうとするものであった。更に執行部は、安保闘争を既に終わったとし、今後は日米共同声明粉砕、沖縄闘争へ焦点をあてるべきだと言及した。

最後に、執行部からスト権を討議事項より取下げ、授業放棄で討論を行なうとの提案があり、代議員との討論の末、次の三提案が議題にのぼった。（一）スト権確立（二）授業放棄で討論集会（三）十三日に再度学生大会開催。これらを審議した結果、（三）の十三日に学生大会を開く（賛成＝三四　棄権二）ことに決まった。